

第三回館山市議定会例會會議錄（第四号）



# 第三回館山市議定会定例会會議録（第四号）目次

日	時	三
場	所	三
出席議員		三
欠席議員		四
出席説明員		四
出席事務局職員		五
議事日程		五
開議		六
議案の上程（認定第一号）認定第七号）		六
決算審査特別委員会委員長報告		六
採決		四
議案の上程（議案第七十三号）		四
質疑応答		四
委員会付託の省略		五
採決		五
議案の上程（議案第七十四号）		五
議案の内容説明		六



委員会付託の省略	一六
採決	一六
請願書の上程	一六
請願書の趣旨説明	一七
質疑応答	一八
討論	一九
動議	三一
採決	三一
閉会	三一
本日の会議に付した事件	三二



# 第三回館山市議定会例会會議録（第四号）

昭和四十六年九月招集

一、昭和四十六年九月二十八日（火曜日）午前十時

二、館山市議定会本會議場

一、出席議員 二十八名

二	二	一	一	一	一	一	九	七	五	三	一
番	番	番	番	第	番	番	番	番	番	番	番
西	鈴	島	宮	和	五	山	辻	渡	近	流	吉
村	木	野	野	田	十	本	田	辺	藤	山	田
真	市	茂	敏	一	嵐			昭	好	源	勇
次	蔵	郎	朗	郎	昇	昇	実	夫	雄	次	郎

二	二	二	一	一	一	一	一	〇	八	六	四	二
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番
安	田	君	安	辻	伊	藤	渡	石	栗	鈴	林	
沢	村	塚	西	井	賀	田	辺	井	原	木		
源		喜	益	謹	多	益	軍	武	一			
徳	治						治					
順	郎	三	男	爾	朗	治	郎	敏	雄	稔	豊	



二六番	飯田義男	二七番	望月照正
二八番	田中禄郎	三〇番	遠山ヨネ子
一、欠席議員 二名		二九番	秋山六三郎
出席説明員	菊井敏博	助役	田山博雄
市長	本間哲三	秘書課長	太田博
収入役	高木哲	企画課長	伊藤幸太郎
人事課長	小沢正治	財政課長	長谷川広治
庶務課長	小倉澄男	稅務課長	越路良夫
市民課長	佐野甲子郎	商工觀光課長	鈴木茂生
収納課長	横溝功	水産課長	谷貝茂
農産課長	石井憲治	衛生課長	牧野喜一
保健課長	網島憲治	建築課長	池田春雄
土木課長	飯田治男	市民センター館長	羽山房雄
交通課長	山口一夫	水道課長補佐	庄司利光
国体室長	小宮利夫	消防長	星野清之助
福祉事務所長	斉藤武男	教育委員	高木正
消防本部次長	岩田實	教育委員	吉田隆夫
教育委員	汐崎政光	学校教育委員	小宮義夫
庶務課長	川上賢爾	社会教育課長	
教育委員			
体育課長			



選舉管理委員會  
書記長

高山隆男

監查事務局長

榎本

繁

農業委員會  
事務局長

岩崎一郎

一、出席事務局職員

事務局 長

高梨清一

事務局 長補佐

高尾

豐

書記 兵藤恭一

渡辺弘

書記 錦織睦子

川上義雄

書記 渡辺弘

川上義雄

書記 川上義雄

川上義雄

雄

一、議事日程（第四号）

昭和四十六年九月二十八日午前十時開議

日程第一

- 認定第一号 昭和四十五年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について  
認定第二号 昭和四十五年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について  
認定第三号 昭和四十五年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について  
認定第四号 昭和四十五年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について  
認定第五号 昭和四十五年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について  
認定第六号 昭和四十五年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について  
認定第七号 昭和四十五年度館山市西部簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

決算審査特別委員会委員長報告

日程第二 議案第七十三号 工事請負契約の締結について

日程第三 議案第七十四号 館山市教育委員会委員の任命について

日程第四 教育施設に対する割当寄付についての廃止の請願書



## 開

## 議

午前十一時四分

## 開

## 議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十六名、これより第三回市議会定例会第四日の会議を開会いたします。  
本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、認定第一号乃至第七号昭和四十五年度一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたします。

認定第一号 昭和四十五年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十五年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十五年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十五年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十五年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十五年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十五年度館山市西部簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

## 決算審査特別委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） 本決算はとくに去る九月二十一日特別委員会を設置し、付議されたものであります。よつてこれより本決算に対し、決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。  
決算審査特別委員長西村真次君御登壇願います。



(二四番議員西村真次君登壇) (拍手)

○二四番 (西村真次君) ただいま議題となりました認定第一号乃至第七号昭和四十五年度一般会計並びに特別会計決算に係る決算審査特別委員会における審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

去る二十一日の本会議におきまして、本委員会に付託となりました認定第一号乃至第七号の審査につきまして、二十三日、二十五日の両日にわたつて委員会を招集いたし、各会計における決算を慎重に審査を行ないました。

本決算につきましては、すでに監査委員によつて厳格なる監査が実施せられた結果、いずれも本年度の決算を適正に表示していることを認める審査意見書が付されております。

しかしながら、本委員会といたしましては、議会の立場より付託の趣旨を体しまして、慎重なる審査を行なつた次第であります。

審査の方法といたしましては、一般会計は歳入歳出とも各款ごとに、特別会計につきましては、各会計ごとに審議を行ない、さらに最後に総括的な質疑を行なつたのであります。

以下、本委員会におきす質疑応答等整理いたしまして、論議されましたおもしろなる点について御報告申し上げたいと存じます。

まず、一般会計歳出総務費企画費中、企業誘致奨励金として、三百八十五万円余の支出がされておりますが、この内容について説明を求めましたところ、本件は企業誘致条例に基づく五社に対し、それぞれ算定された額を奨励金として交付してあるものでありますが、今後この企業誘致条例については、事業の実態を把握し、委員会等の意見を聞き、再検討していきたいと考えておる旨の答弁がありました。

次に、防災対策について、市当局においては、防災訓練、地震講演会を開催される等、災害に対する市民の関心を深めていることは、まことに時宜に適したものと考えるが、特に学校の児童、生徒に対しては、どのような指導をされているか伺いましたところ、



地震については、実際に地震に遭遇した学校の日常における訓練状態、被害状況など各種の資料を配布して、各学校ごとに地震対策を樹立しておる。その他、火災に対する避難訓練も行なつておりまして、特に非常時におきます教師の指示に従つて完全に動くことができるように指導するとともに徹底をはかりたいとの回答がありました。

次に民生費中、青年館の建設につきまして、これが設置基準、財源内訳、規模さらに備品の整備状況等についてただしましたところ、

青年館につきましては、知事の施策として実施されたものでありまして青年館の設置要綱に基づく地域青少年の健全育成を目的とした施設であり、県のワク内で地域の実情、要望によつて建設をいたしております。この財源としては、県が六十万、市が五十万を助成しております、残りを地元で負担しておりますが、特に地元の負担能力ということも考慮して、四十三年から大体二十二坪程度のをモデル青年館として設定しておることとあります。なお、備品につきましては、四十四年より十万円の助成をして整備に努めておりますが、ことに図書につきましては、各青年館と交換等の方法により効率的に利用する一方、地元の協力を得て逐次充実をはかつて参りたいとの回答がありました。

青年館の建設に当たつては、青少年の福祉、健全育成等全市的を総合対策という面から、関係機関の協議を経た上で建設を進めていただきたいとの要望意見がありました。

次に衛生費中、予防費におきまして、各種検診委託料として七百十八万余円が支出されておりますが、これらに対する効果についてどのように把握されておるかとの質問に對しまして、

胃の集団検診につきましては、相当期間経過しないとはつきりした効果測定は困難と考えますが、四千五百八十人が間接撮影を受け、そのうち、精密検査を受けた者が千三百十六人、それで胃がんの疑いを含め、発見いたしましたものが十六人、ポリープ五十九人、胃潰瘍九十五人、癌八十四人、胃炎三百三十七人、十二指腸潰瘍二十四人、このような患者を発見し、それぞれ治療を進めております。

結核検診については、一万七千二百人の検診を行ない、そのうち、異常と思われる百十八人に対してそれぞれ観察、



指導し、医療機関に連絡して治療するようにしております。母子保健推進活動事業といたしましては、母子保健推進員七十二名を委嘱し、四百十六軒の家庭訪問を行なっております。

婦人がん検診につきましては、四百五十五人の検診を実施し、うち異常を認められた者二人、それぞれ千葉大に連絡し、処置いたしております、いずれも保健知識の向上と疾病予防、早期発見等に成果をおさめたとの回答がありました。

次に水道費中、水質検査室が設置されて井戸水などの水質の検査を実施しておりますが、検査後の浄水指導はどのように行なわれておるかいたしましたところ、検査の結果については、十数項目からなる水質検査結果表に検査内容を記入し、それが水質基準に適合しておるかどうか、さらに飲用適、不適の判定、それについての意見、処置を加えて通知しておりますが、実際の手法としては、井戸周辺の環境の保全、薬剤添加による浄水あるいは滅菌器の整備等について、各町内会ごとに説明会を開いて浄水処置についての指導を行ないますし、希望によつては現地指導も実施している旨の答弁がありました。

次に農林水産業費中、本年度における農地転用の件数、面積について及び宅地造成等に対しては、いかに指導がなされておるかとの質問にしまして、第三条適用、農地としての所有権の移動二百二十一件、第四条転用のみのもの七十五件、第五条所有権の移動を伴う転用、四百十二件、その他十四件、合計七百二十二件でございます。面積にいたしまして四八・八ヘクタールとなつております。なお、宅地造成等に対しては、農地転用に伴う基準に準拠して残存の農地の生産効果を落とさないことを基本的な第一要件として考えております。それらの迷惑にならないような施設を条件として埋め立て、道路、排水等を勘案し、できるだけ不備な面をなくするよう指導し、要請しておるとの回答がありました。本件につきましては、本委員会といたしまして転用の条件であります埋め立て、排水等について十分な施行がなされないで放置されておる実例がありますので、許可にあつては、十分の行政指導を行なうよう強く要望いたしました。



次に商工観光費中、民謡宣伝補助金、テレビ宣伝補助金が計上支出されておりますが、これが宣伝方法と効果について伺いましたところ、民謡宣伝補助金は、観光協会に補助金を交付して協会において主として県外の会議に際しての催しに地元民謡団体の方々をお願いし、特に郷土の民謡を披露していただき、観光客誘致をはかっているものである。

テレビ宣伝につきましては、観光協会にテレビ宣伝を委託いたしましたとして、特に東北方面を中心としてテレビ岩手、宮城テレビ、福島テレビに対し、一月二十五日から二月二十八日にわたつて十五秒スポットをもつて館山の観光宣伝を放映いたしました。また、南房総共同宣伝として広域的に安房郡市観光協議会においても南房総のテレビ宣伝を実施しておりますし、合わせましてテレビの番組ともタイアップして観光宣伝に努めておるとの答弁がありました。

次に教育費中、宿日直代行員賃金が計上されておりますが、この代行員の身分及び事故発生の場合の補償について説明を求めましたところ、この宿日直代行員の身分につきましては、非常勤の職員として扱っておりますして、事故の補償については、市が責任を持つて行なうこととなります。市はこれについて千葉県総合事務組合に加入し、そこで補償の決定がなされますが、この代行員については日額二千円を基準として補償を実施することになつておるとの回答がありました。

次にランドセルの譲与につきましてランドセルぐらゐは買つてやりたいという父兄の意見がありますが、これについてどのように考えておられるかとの質問に対しまして、ランドセルの譲与については、経済的な面のみでなく、教育的に見ても非常に効果をおさめておりますが、いろいろな意見も聞いておりますので、来年度は廃止するかどうか検討したいと思つてゐる。

なお、PTAの助成金につきましても、すでに三年を経過して軌道にのつたとも思われますし、会費は自主的に徴収すべきだとも言われておりますが、来年度は、然るべき方法を検討したいとの見解が表明されました。

次に、歳入市税におきまして、七十二万余円の不納欠損額が計上されておりますが、この内容について説明を求めましたところ、この内訳は市民税において二百八十四人、法人市民税十四人、固定資産税、都市計画税六十八人、軽自動車



車税八十人でありまして、欠損処分理由としては、生活困窮者、倒産した者、死亡承継者のない者、住所がわからない者等である旨の回答がありました。

本委員会といたしましては、市税については、適正な課税と相まつて、これが徴収にあたつては、納税組合の強化をはかる等、あらゆる方策を講じ、できるだけ欠損額が少なくなるよういつその努力を要望いたしました。

次に使用料及び手数料中住宅使用料の収入未済額が四十三万余円計上されておりますが、この実態についてただしましたところ、この使用料の未済につきましては、入居者が比較的低所得者であることから、ほかに税の滞納と合わせてこの使用料の両方にまたがる者もあり、なかなか一挙に解消できない状況にあります。徐々に滞納額も減つてきておりまして、なお、納入組合の結成なども奨励しておるとの答弁がありました。

次に寄付金についてであります。この点につきましては、本会議でも指摘されましたし、本委員会におきましても歳出、歳入両面にわたり質疑がなされました。特に四カ年計画による道路舗装寄付金、学校プール建設地元寄付金について多く論議されましたが、これに対し、市としては今までもそうでありましたが、今後におきましても強制して割当寄付をしない方針を堅持する一方、区長を通じて割当とか、強制寄付等が行なわれないよう今後十分な指導をいたしたい。なお、寄付金が集まらなくても事業は計画どおり執行して参る旨の見解が表明されました。

次に国民健康保険特別会計、保険税についてであります。不納欠損額が前年に比べて増加しております理由について説明を求めましたところ、今年度二百九人の欠損処分を行ないましたが、従前は何とか納めてもらつたこと、処分を延ばして参りましたところ、どうしても収納できなかったため、本年度欠損処分を行なつたことが増加の原因であるとのことでありました。

なお、現在の保険税の課税方法に無理があるのではないかとの質問につきまして、課税については社会保障的な立場からできるだけ大衆課税的な面は排除したいとの考え方は持つておりますが、現在の法律におきましても標準税率が設定されておりましてそれにより課税されておる旨の回答を得ました。



次にと畜場会計につきまして解体と夫の身分の安定化の方策について意見を伺いましたところ、現在の制度上、一般職としての形として週五日、六日制ということで限定されておりまして、それに満たないものは常勤の一般職とみなされないうたてまえになっておりますので、一般職待遇の確立については稼働日数が問題となりまして現在の週二日制では一般職の適用が不可能であります。この問題の打開策につきましては、所管課と前々から検討は進めて参つておるとの回答がありました。

次に休養施設特別会計についてであります。鳩山荘の経営状況及び将来の改修計画についてただしましたところ、四十五年度における総体の利用率といたしましては七〇・〇八%で前年度の六三・〇三%から比較すると上昇しております。人員につきましても、総利用人員が二万三千二百八十人で前年度の二万九百三十七人に比べて増加しております。また経理面から見ましても四十五年度は若干の繰り越しを生じております。

なお、施設につきましては、十年を経過して老朽化して参つておりますので、将来改築の必要もあるのではないかと考へておる旨の回答がありました。

次に各款等によります総括的な質疑がなされました。まず、工事情負について業者指名の状況、指名基準などがあるように行なわれておるかたえましたところ、毎年、三月十五日を期限として指名参加願いが市に提出されますが本年度は市内の業者が四十四社、市外の業者三百六十五社の指名願いが提出されております。指名にあたりましては、指名基準が設けられておりまして、不誠実の行為の有無。経営及び信用の状況、当該工事に対する地理的条件、手持ち工事の状況、技術の状況、当該工事に対する技術的適性こういった基準に照らし合わせ勘案の上、さらにそれぞれの主管課が個々の実態を調査、検討の上適当と認めた業者を指名しておるとの回答がありました。

次に燃料関係の購入につきましてガソリンの単価等について伺いましたところ、現在、市では三社から単価契約を結んで購入しておりますが、ガソリン一リットル市価五十円のもの、四十五円、A重油市価十五円、B重油市価十二円五十銭で購入しておるとの答弁がありました。特に業者の指名につきましては、今後とも十分慎重、公正を期し、誤解を招



くことのないよう、合わせて商工業振興の観点から市内業者優先については、格段の配慮をされるようとの意見がありました。

次に交際費につきまして、市交際費、市長交際費につきまして、その使途についての説明を求めましたところ、慶弔的な支出として市長分六十五万七千九百九十円、市分二十二万五千七百八十円、諸会議等の来館者に対する地元としての接待費等、市分二十一万七千六百七十七円、当該年度における一時的支出として市長分六万九千円、市分三十万八千二百六十五円、諸行事大会等における奨励的なものとして、市長分十二万三千七百二十円、市分七万三千三百四十円、通常の接待費市長分五十五万四千六百三十七円、市分五十三万六千七百六十四円、その他市長分二十五万三千六百三十三円、市分八万二千六百九十円、そのほか諸会議に出席する場合の関連的経費九万八千二百五十円、以上市長交際費百七十五万円、市交際費百四十四万四千五百十六円が支出されておるとの説明がありました。

その他、決算書の各費目にわたり慎重に審査を行ないました。

以上、本委員会におきます審査の概要を申し上げましたが、提案説明にも述べられております如く、物価高騰と行政需要激増の中において苦しい財政事情に当面しながら、おおむね各種事業は予算議決の趣旨にそつてその目的を達したものと思考される次第であります。なお、今後市当局におかれましては財源の確保と合理的な予算の執行に努められ住民福祉向上のため一段の努力を傾注されますようお願いいたしました。

以上により、本委員会は付託を受けました認定第一号乃至第七号昭和四十五年度館山市一般会計並びに特別会計決算に対し、いずれも認定すべきものと決しました。

ここに決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げた次第でございます。よろしく満場の御賛同をたまわれますようお願い申し上げます。

議長 (吉田勇治郎君) 以上で委員長の報告を終ります。

本委員長報告につき御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。



これより討論を行ないます。討論はございませんか。——討論なしと認めます。

(一四)

### 採 決

○議長 (吉田勇治郎君) これより採決を行ないます。

認定第一号乃至第七号昭和四十五年度一般会計並びに特別会計決算は、決算審査特別委員会の委員長の報告のとおり  
いずれも認定と決しますことに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長 (吉田勇治郎君) 起立満場。よつて本決算はいずれも認定と決定いたしました。  
暫時休憩いたします。

午前十一時二十二分 休 憩

午後 一時三十五分 再 開

○議長 (吉田勇治郎君) 午後の出席議員数二十五名、休憩前に引き続き会議を開きます。

### 議 案 の 上 程

○議長 (吉田勇治郎君) 日程第二、議案第七十三号工事請負契約の締結についてを議題といたします。

議案第七十三号 工事請負契約の締結について

### 質 疑 応 答

○議長 (吉田勇治郎君) 本件については説明が終つておりますので直ちに質疑を行ないます。

○九番 (辻田 実君) 先般御説明がございましたと思うわけでございますけれども、全員協議会の中におきましてい



ろいろと市長さんのほうから御説明があつたわけでございますが、そのときに一応いろいろないきさつがあつたので、それらについて十分確かめておいていただきたいということの要望を出しておつたわけでございますけれども、その後そういうわさ、そのような間違いはなかつたと思ひますが。そういう確証が得られておりますか。その点得られておるということでございますればけっこうでございますけれども、そこらの経過についてお伺いをいたしたいと思ひますので簡単にけっこうでございますのでお願いします。

○ 庶務課長 (小倉澄男君) お答えいたします。それらの点につきまして十分調査いたしましたして間違いないという結果、その契約がなされた次第でございます。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○ 議長 (吉田勇治郎君) 本案を委員会付託並びに討論省略することに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。

### 採 決

○ 議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案を原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

### 議 案 の 上 程

○ 議長 (吉田勇治郎君) 日程第三、議案第七十四号 館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。



議案第七十四号 館山市教育委員会委員の任命について

議案の内容説明

○市長 (本間 譲君) ただいま議題となりました館山市教育委員会一名が来たる十月一日をもつて任期満了と相なる

わけでございますが、これまで教育委員をつとめました実績もありますまた人格、識見ともによりつばな福岡保徳君を推薦申し上げたいと存じますので、満場の御賛成をいただきたいと存ずるわけでございます。以上です。

○議長 (吉田勇治郎君) 本件に対して御発言ございませんか。——なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長 (吉田勇治郎君) 本案を委員会の付託並びに討論を省略することに御異議ありませんか。——御異議なしと認めます。

採 決

○議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案を原案通り同意するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よつて決しました。

請願書の上程

○議長 (吉田勇治郎君) 日程第四、教育施設に対する割り当て寄付についての廃止の請願書を議題といたします。



(書記朗読)

教育施設に対する割り当て寄付についての廃止の請願書

請願書の趣旨説明

(一九番議員島野茂樹郎君当壇) (拍手)

○ 一九番 (島野茂樹郎君) 紹介議員といたしまして、教育施設に対する割り当て寄付廃止の請願につきまして、その趣旨を御説明申し上げます、議員諸賢の満場の御賛同を得て採択くださいますようお願い申し上げます。

まず、請願事項でございますが、義務教育の施設の設置と整備については直接であると間接であるとを問わず住民に對して寄付金の割り当てをして徴収するようなことはしない。そうしてこのようにして集められた寄付金の受け入れはしないようにしてもらいたいというのが請願の内容であります。

理由について申し上げますと、教育の振興は館山市政の柱の一つとして本間市長就任以来力を入れてきたところであります。そうして施設の充実、義務教育の父兄負担の軽減については特に配慮がなされ、着々と成果を上げつつあることはひとしく市民の認めるところであります。中でも父兄負担の軽減につきましては、小、中学校の需用費の増額をはじめ四十四年度には、私ども若干の批判を持つておる者でございますけれども、PTA会費の市費負担、さらに四十五年度からは学用品の無償交付等全国に先がけた施策を実施され話題を呼んだことは御承知のとおりであります。

このように、きわめて進んだ施策が実施されている反面、学校プールの建設につきましては、相当高額の寄付が部落に、そして部落からは住民にというふうに割り当てという形で徴収されております。すなわち部落の長が割り当てをもらつてきてそれを各班長に割りふり、班長は個人別の額をきめるというようにして寄付が集められているのであります。このような状態の中では、多いから減らしてほしいあるいは出せないということになりますと、その分をほかの人が負担をする結果になります。したがつて、こういうことはなかなかいい出せないという状態があるわけであります。



不満をおさえても割り当てされたものを出すというのが実態であろうと思います。

このようにして集められた寄付金を市が受け入れておるのでありますから、これは地方財政法第四条の五にきめられておりますところの「地方公共団体は住民に対し、直接であると間接であるとを問わず、寄付金を割り当てて強制的に徴収するようなことをしてはならない。」という割り当て寄付の禁止の条項に抵触するものといわねばならないと思います。同時に私どもも住民にとつては大きな経済的負担であつて、せつかくの教育費の父兄負担軽減措置が一挙に帳消しされるばかりでなく、市長の本来の主張であります義務教育は全額公費でやるべきであるという真意までもあるいは売名ではないかという疑いをもつて見られかねないといふことになります。また、何も背のびまでして学用品までただにしないでいいんではないかといふような声さえおこつてくるのであります。これはまことに市長のためにおしむべきことであるといわざるを得ません。

新しい進歩した施策を取り入れることは市勢の発展のために非常に重要でありますけれども、割り当て寄付といふふうな古い考え方、古い方法を切り捨てていくことが近代的な自治体をつくるために一そう重要なことであると私は思います。したがつて、必要なものは市費でつくる。少なくとも割り当て徴収はしない。そのようにして集められた寄付金は受け入れないといふ明確な態度を打ち出していただきたいものであります。そうして即刻このような寄付金の徴収をしないようにお願いをいたすものでございます。

以上、簡単に請願の趣旨を御説明申し上げましたけれども、なにとぞ満場一致御採択くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。次第でございます。(拍手)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 請願書の説明は終了しました。

### 質 疑 応 答

○ 議長 (吉田勇治郎君) 本請願につきまして何か発言がございますか。



○ 九番 (辻田 実君) ただいまの件について、全面的に賛同いたしたいと思ひます。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 質疑にしていただきたいと思ひます。討論は後刻という意味で申し上げておりますから。質疑がなければ討論に入りたいと思ひます。

## 討 論

○ 議長 (吉田勇治郎君) 討論に入らしていただきたいと思ひます。本案に対する反対討論はございませんか。

○ 二二番 (田村源治郎君) 割り当て寄付廃止の請願書について私の意見を申し述べさせていただきます。

この教育の仕事によるまた青年館、またプールの問題、この寄付の割り当てという事について、直接、間接で寄付を割り当てたというように、市において行なわれたということをいうが、これは事実豊房、プールこれは地元から要請されたものであつて、市が直接にこれはプールの建設をするという意味のものは一つも持ち合はしてなかつた。それから館野もそのとおりである。地元からの要望でやつたものである。この点に対して豊房のプールをつくるときに割り当て寄付の禁止のあれがあつたが、これに対してどうしても住民に対して違反行為があつてはいかぬ。地財法にふれるという事に所管の常任委員である建設委員も他の文教委員も研究し、地財法にふれないように研究し、そうして市もそれにおいて要請があるならそこにおいて篤志家たちの寄付をもつて充てて、充当する。寄付を受け入れるという形のものにプールはできたものであります。ですから、市の市長、職員、教育委員会あたりは今までイデオロギートして確実に知つておるだろうと思ひます。そういうことは決してしてはいかぬ。ですから、法令には何ら自治法にはふれていない。現在行なわれておる篤志家たちの人たちが自分たちが責任を持つて行動したのみであつて市には直接議員も直接タツチしておるものではない。

それから、プールの問題にしても文部省が学校に特にプールをつくらなければならないという市に指定したものでない。市は学校の特に設備するものは寄付をあおがずに独自の立場をもつて予算に組んでおる。かような次第であつて



これはプールというものは土地の要望において、豊房でも自分たちが、館野地区でも自分たちがどうしても子供が泳がない。泳げないからプールをつくつてくれと市に嘆願をした。お願いにあがつたもので、そのときに地区議員も私としてばそれは困る。寄付ばかり出されては困るのだ。寄付の多い部落はなにしろ学校の設備は整つてしまふというわけで私たちは大いにこの問題は反対した。寄付は特殊寄付であつても大いに反対したが特殊寄付なら異議ない。こういう常任委員会は結論づけて違反行為はないという確信のもとに、このプールというものを建設されたものである。同時に市におかれてはその割り当て禁止、地方財政法第四条の五としては、市の教育委員会が市民税、固定資産税を基礎に一定率を割じて得た個人別の寄付をしようとしての行為は本案は禁止してあるものである。本条の規定に抵触すると書いてある。だから、市は直接の手を出す、市が寄付を直接集めるという、何かの市が目標を立てて寄付を出さないとつくつてやらないという言明をしたものではおそらくないと思う。直接的でも間接的でも寄付を出しなくてはならないとつくつてあえて寄付を出す必要がないのだ。私は寄付は任意のものだから出す必要はない。篤志的考えがあれば出してほしい。これは篤志家の行為であつて財源の乏しい市は、地方財政法にも自治法にもいわれておるとおり、財源の乏しい財源を有効に生かし、かつ最大有効に生かすということがうたわれておる。

決して割り当てる寄付の禁止、そういうことに対して抵触するものは行なつてなかつた。今後富崎地区においてプールは今寄付金の問題にかかつておる。各学校はほとんどで、住民がプールをつくりたいと、寄付を出してプールをお願いにあがろう。プールをこつちからお願ひする。プールというものは学校にあつてもなくてもいいということになつておる。今のところ文部省では、ほかのほうの学校の部落がほとんどつくつた。神戸もつくりあげた。富崎もどうして寄付は最も楽な寄付金によつて市長さんにお願ひしよう。市長は必ず寄付を持つてこなければつくりたくないといつたものではない。議員もそのとおり納得したものであるから、直接、間接の行為というものはおそらく何もない。その行為があるならば即座に今までやつたときになせいわなかつた。議会に対して報告すべきだ。私は法令にふれてないということを確信を持つたらしいだろふと思ひます。



○ 議長 (吉田勇治郎君) 賛成の諸君の討論を求めます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 私は、この教育施設に対する割り当て寄付についての廃止の請願に賛成する立場から、また紹介議員の一人として今、田村さんのほうから問題になつたそういう点での釈明のような形になるかもしれませんが、そういう面の意見を申し述べたいと思います。

財政法の四条の五に抵触するという事実は、これは現実に寄付がやられているということからこの請願書面が出てきたものでありまして、従来もこれは過ぎた決算委員会で指摘、問題になつた那古小におけるプール建設の寄付についても一戸当たり五千円というような寄付が割り当てられて、組織的に区長あるいは町内会長を通じて各戸に割り当てられるというようなことが現実に起こっているわけです。近くは北条小のプール建設についても期成会ができて、期成会が町内会長を集めてそして班から個人まで数が表示されて割り当てられておるということで、一応そういう間接的ではありますけれども、反強制的な寄付が現実に進んでおるわけです。そういうところからみますと、どうしても私たちは隣組というようないきものがあつてあります。隣近所で出していると自分が一人そこで出さなければちよつと隣組からへんな目で見られるというやうなやうなことから、半強制的な寄付にならざるを得ない。これは神戸のほうですけれども、六千円の寄付が一戸当たり平均に割り当てられておる。そういうところでこれをいふと村八分になるといふやうなことから半強制的な寄付になつております。近くは四中プールの寄付が九千百円と一戸当たりそういう額で割り当てられております。

こういうふうに現実は、市長さんは任意の寄付だということをおつしやいますけれども、現実には割り当ての寄付が半強制的に下のほうまで浸透するわけです。これは決算委員会についても寄付の問題では相当私たちは追及といひますか、市長さんの見解を述べてもらつたわけですが、市長さんは決算委員会の報告にもあつたやうに強制的な割り当て寄付はやらない。寄付が集まらなくても計画どおり建設はやるというやうなやうなやうな回答をされております。したがひまして、私たちはこの学校の寄付については、国民は教育を受ける権利がある。それから国や地方公共団体は、教育のた



めの施設や設備を整える義務がこと教育に關しては市長さんが常におつしやつておるように、義務教育は無償とするというようなそういう立場から考え、そういう施策を今までも続けてきたわけです。

一方では父兄の負担を軽減をはかるといいながら、一方で寄付が割り当てられるというようなことでは父兄負担の軽減にはならない。こういうことで市民の中から割り当て寄付に対する反対の意向が非常に強いわけです。というのは、割り当て寄付になると、その個人の力とか収入とかが考慮されておらず、本當にその人の収入に匹敵した公正な金の出し方にはなっていない。したがって、まずしい人にかなり高い率の寄付が割り当てられるということで市民の中から大きな不満となつて三千二百十三名の署名を集めて請願するといふようなこういう状態になつたと思います。

したがいてまして、今後法に違反するような強制寄付はしないと市長さんが言明されておりますから、これを市民に徹底させまして、割り当て寄付にならないような、強制寄付にならないような、こういう市民の願ひに対して満場の議員諸君もぜひこの請願に賛成していただくようお願いして発言を終わります。

○議長 (吉田勇治郎君) 他に討論はございませんか。

○七番 (渡辺昭夫君) この寄付行為は地財法に反するものではないと考えます。館野地区の建設決定にあたりましての経過を申し上げますと、地域内各部落ごとにたびたび集會が行なわれまして、その席上におきましてその必要性もその時点における過去の建設の過程等いろいろ話し合つたわけでございます。その結果、建設に協力しよう。こういう理解ある地元の方々の協力に基づいて市に対し設置方を願つたわけでございます。子供たちのしあわせのためにも父兄が、また地域住民の方々が建設的に協力するといふことであつて、義務教育の内容の充実のために協力していこうといふこの風潮はまことに尊いものであると思います。また大いに教育的効果のあることだと考えます。このような観点から反対の意見を申し上げます。

○一三番 (五十嵐昇君) 教育施設に対する割り当て寄付についての廃止の請願書が、ここに六名の方の紹介議員をもつて提出されておりますが、その内容を見ますと一義務教育の教育施設の設置と整備については直接であると間接で



あるとを問わず住民に対して寄付金の割り当てをして徴収してはならない。しない。そしてこのように集められた寄付金の受け入れは館山市においては行なわない。」という請願事項につきまして、市民と館山市の区域と、それから郡部を中心とした区域外の住民の連署をもつて請願書が提出されております。その人数は三千二百十三名ということでございます。区域外の住民のことはさておきまして、一部市民の意思の反映としてこの協議会はこの請願書を受けまして率直に現実を直視して最善の結論を得ることに真剣に取り組むべきである。私心がその間にさしはさまれてはならないと念願するものであります。

私は、請願紹介議員の諸君と反対の立場、当館山市は義務教育の教育施設の設置と整備について決して強制的に寄付の割り当て徴収をしていないという立場に立つてこの請願に対して反対するものであります。その理由を、私の主張するその理由を次の五点に要約していきたいと思っております。

まず、その第一といましては、本間市長の教育に対する積極的政策とそれに対する誤解についてであります。二番目といましては、市当局の事前のPRすなわち事前に当局と地元住民との対話のルートが確立されていなかったための誤解であり、断絶であり、批判ではなからうか。三番目に施設、設備の拡充と市の貧弱財政との関係であります。四番目に教育の施設、設備は公平、平等にかつ普遍的に整備されなければならないということであります。五番目に市民の財政上の負担はどこまでも公平という立場において十二分に考慮されてしかるべきである。すなわち旧館山市区域と合併町村との区域の住民の負担が公平でなければならないということでありまして、この五点につきまして私見を申し述べてみたいと思っております。

まず第一に、本間市政の教育に対する積極的政策とその誤解についてであります。本間市長は市長就任以来市政担当の三本の柱といまして教育の充実とその機会均等、産業の発展、観光面の充実と拡充とをあげて、その成果を着々とあげておるのであります。その熱意に対してはわれわれも賛意と敬意をささげるものであります。その政策の一本である教育の充実と機会均等に積極的に取り組んで父兄負担の軽減を真剣に考えておるものでありまして、その一例は小



学校におけるところの学用品に対する全廃これは島野議員が申されたとおりであります。本日ここに論議される問題は水泳プールの寄付金の問題について一部の市民の方々の誤解をまねいた結果であると断定するものでございます。

二番目といたしまして、市当局の事前のPRすなわち事前に当局と地元住民との対話のルートが確立されていなかった結果はありはしないか。すなわち地方財政法及び同施行令によりますと、都道府県が直接、間接とを問わず、住民に負担をさせてはならない経費として、高等学校の施設建設の費用、建設費また市町村が住民に負担をさせてはならないものとして町村職員費、小中学校の建物の維持、修繕費があげられており、こうしたものは当然都道府県あるいは市町村の予算でまかなうことを原則とされておるのであります。しからば、小中学校のプールとか、体育館等について特にここではプールにつきましては、どうしても市町村の自治体が設置をしなければならぬ施設、設備にはなつておらないと信ずるのでございます。ただし、スポーツ振興法第十二条に「国及び地方公共団体は、体育館、水泳プール、その他の政令で定めるスポーツ施設が政令で定める基準に達するよう、その整備につとめなければならない。」とこう規定してあるのでございます。したがしまして、市当局はこのスポーツ振興法によつても小中学校にどうしても設置しなければならぬプールでは決していないはずであります。したがつて、かかるプール建設費についてその地元負担をなぜ必要とするのかということについて積極的に地元民との話し合い、すなわちその間の相互理解の中では喜んで任意に負担をしていただく。いわゆる篤志家の寄付は受け入れ、歳入に組み入れることはいささかもこれを法に禁止するものではないと考えるものであります。もし、ここに一部の地域の住民との間に寄付にトラブルが起こつたものとすれば、事前に当局との対話のルートが確立されていなかったための断絶があり、誤解があり、批判があつたのではないかと思うのでございます。

三番目に、施設、設備と市の貧弱財政との関係でございます。当市は教育費予算に全予算の三分の一、市税六億といわれておりますが、その大部分の額を市の教育予算に使つておるのであります。なお、それでも不足している現状でその不足分を理解し、篤志家の自発的寄付として一般財源に組み入れてあるのでございまして、これは決して紹介議員諸



君のおつしやる不当な強制的な寄付云々にはあたらないと確信するものでございます。ことに当市におきましては、市民の体位向上と四十八年度における若潮國体をひかえてプール建設をいそぐことはやむにやまれぬ情勢であろうかとう存じまして、ぜひともその点につきましても絶大なる御理解をいただくべきではなからうかと信じて疑わないのでございます。

四番目に、教育の施設、設備は公平、普遍的に整備されなければならないということであります。これは教育の機会均等の立場から当然のことでありまして、一校でも多くプールをつくつて持たしてやりたい。つくつてやりたいという市長の親心の反映であろうかと存ずるのでございます。また、親といたしましては、自分たちの学校に他校の持つようなプールがほしいと考えるのもまた無理のないことでありまして、こういう親心を通して考えますと、年次長期計画のもとにあと残つております富崎小学校とか、あるいは房南中学校とか、あるいは館山小学校、一中こういう学校にもつくつてやりたい。持たすべきであるということで教育施設、設備の充實をはかつてやることこそ、議会人としての最大なる責務ではなからうかと信じて疑わないのであります。しからば一体、ただいま紹介議員のおつしやるような不平、不満の根源はどこにあつたのさうか、つらつら考えてみますのに、館山市の現状から地元寄付金はどうしても必要財源である場合、負担の公平ということについて十分考慮されているや否やという問題、たとえば一つの施設をつくる場合でも館山市と合併町村との住民との間に当然負担額が違つてゐるのではないか。むしろそれが公平であり、平等であろうかと思うのでございます。古いことばに「足らざるを憂えず、ひとしからざるを憂える」「足らざるを憂えず、ひとしからざるを憂える」ということばがありますが、為政者としてはまさに座右の銘ではなからうかと存ずるのでございます。

ただいま問題となつておりますプールに例を取つてみましても、地元負担について、たとえば北条小学校の場合とあるいはこれからできるであろう四中とを考へてみますと、北条小学校の場合は都市の中心部であり、かつ負担能力の十分のものが多く寄付を全然負担しないものが中にはあるということを聞いておるのでございますけれども、これらは寄



付の性質上から考えまして当然しかるべきものであつて、館山市は地域住民に同一の高額の負担をしているものとは考えられないのでございます。したがしまして、一つの施設をつくるにもやはり貧者の一灯で五十円でも百円でも私はいいのではないか。いわゆる所得格差によつて当然寄付に対する額が違つてくる。当然あつてしかるべきものだと思つてございます。また、その建設費の大部分をなすところの市のいわゆる基本金額、基本額等につきましても、各地域によつて差違があり、そこに当局のきめの細かい親心があつてしかるべきものである。またそうあつてほしいということを特に要望するものでございます。

以上、申し上げました五点からいたしましたして、本請願における直接、間接とを問わず寄付は強制徴収をしてはならないという請願は決してこれは強制的寄付、割り当て寄付ではなかつたという現時点を私は信じて疑わないのであります。もしもこの点につきまして是正する点等がありましたならば、次の議会に提案いたしまして補正等最善の処置をするように進言いたしますと同時に、本請願書につきましては、すでに議決せられた予算に甚大な影響を及ぼす点が多々ありますので、現時点におきましては最も不適当であらうと考えるものでございます。したがしまして、私はこの請願につきましては反対するものであります。以上。

○ 九番 (辻田 実君) ただいまの御発言の中におきまして、紹介議員の方々の真意をつらつら考えるならばということでもつて披露されましたけれども、真意のほどを了解していただきたいと思うわけでございます。

この請願書の請願事項並びに請願理由につきましては、一九番議員のほうから説明がありましたのでその内容は省略いたしたいと思ひます。ここでただいす請願書の原案についての反対意見が幾つか出されたわけでございます。ほとんどの方たちがこの請願の内容については御賛同いただけるような内容でございまして、ほぼ私どもとあまり考えの違わないことを見受けられるのでございます。しかしながら、本年度の予算の成立後においてとか、さらには現時点においてブールの建設というのを第一前提にするならばやむを得ないじやないかというよりな趣旨から本案に対して反対があつたようでございます。そこで、私はいま一つこれらの内容について補足をいたしたいと思うわけでございます。



ども、直接であると間接であるとを問わず住民に対して寄付金の割り当てをして徴収してはならないということは地方財政法四の五の法律でございます。これについてはほとんどどの発言者が了解しているようでございます。しかしながらここに焦点になつてゐる一つの問題点、食い違ひの点ということは寄付金が割り当てられておるか、られておらないか。そうして自主的であるか、どうであるかということ。三番目には公平に行なわれておるかというふうなことが一つの論点の上に立ちまして、そういう意見が分れておるようでございます。私はやはりこの請願事項に掲げてある三行の文句でありますけれども、これは地方財政法に定められておる条文そのままでございます。したがひまして、この条文そのものを否定するということは法律を否定するということでございます。私はそういうことがあつてはならないというふうに考へておるわけでございます。しかしながら、現実には今いろいろと出されたような御意見の中にかがわれますやうな、この法律を否定するやうな行為が幾つかあるわけでございます。このはつきりした面におきましては、あくまでも自主的であり、そうして強制なく行なわれている寄付であれば、なにゆゑ四十四年、四十五年、四十六年の当初予算において予算を計上しなければならないのか。北条小学校においてもしかり。那古小学校においてもしかり。館山市の予算に計上されて討議されているではございませんか。どこの例をみても部落の中で討議されてこれだけ集めましたから補正予算を組んでくれという例が幾つあつたでしょう。ほとんどのものが議会で予算が提案され、その寄付金を受け入れるという前提のもとにその額が学区内の地域の家庭の数によつて割り当てられておる。この現実でございます。これは明らかに地方財政法でいう間接であると直接であるとを問わず寄付金を割り当ててということに違反する事項であるわけです。

こうしたことが、先ほどもいわれておりますやうに、市長さんが非常にりつばな施策を打ち出し、新しい施策をならべても、現実には法律に違反したということになればこれはすべてのものが水泡にかへされてしまうということであります。

少なくとも、私はこの請願書の紹介議員になるに際しまして、先ほどから出ております反対意見の方々のやうに寄付



が当然設定されておらなければ私どもはこうしたところの請願書に紹介議員として私は名をつらねなくてもよかつたわけでございます。しかしながら、現実には予算として寄付が集められないうちに既定事実ができていてはございませんか。これが法に違反であるということです。そういう点については過去幾つかできたブルについてとはほとんど例外なく先に寄付金の額がきめられて、その額が何らかの形でつて地域に伝わる。地域の中でその額を中心として集めようという運動が進んでおる。このことが明らかに法律違反である。地方財政法違反である。こうしたことがやはりこの館山市の中において行なわれておることは非常に憂うべきことであるわけでございます。私も市の議員としてこうしたことが平然と行なわれておる。そのことに對して若干の責任を持つものでございます。そうした意味におきまして、この請願事項は本来法律どおりに施行されておるものならば、私はこうしたところの請願書が三千人を越える人たちから出てこないというふうに考えております。しかしながら、現実にはそういう事実がある。したがって、私は願わくばこの請願書が通つて、そうして四十七年来年度予算さらには再来年の予算にも寄付金の項目の尹に当初から打ち出されてくることのないように、そうして市長さんおつしやつておりますように、寄付は集まつても集まらなくても事業の推進というものは行なわれていくならば、私は非常に幸いではないかと思つておるわけでございます。そうした討論は過去何回となく繰り返されてきております。しかしながら、現実には毎年毎年当初においてそういう寄付が設定され、寄付が設定されたことを前提に各町内会に、学区内に寄付が割り当てられていく。このことを私は決断をもつていつかたち切らなければならぬのではないか。そうして本来いろいろ皆から出たような本当の姿の中においてやはりこの学校施設の充実というものに進んでいかなければならないのではないか。この面についての考え方については、ほとんど相違がございません。私どもといたしましても、先ほどから出ておりますところの意見と全く同じでございます。ただ、こうしたことが意見の分れるところでございまして、現実には当初組まれたものが下に流れていつておるということが事実でございます。そのことが法律違反でございますので、その点について念をおしていただく意味におきまして、この請願書の内容を原案通り採択していただきたいことを要望いたしまして、私の意見にかえたいと思ひます。



○ 三番 (流山源次郎君)

私、原則的には公共施設に對しますところの税外負担というものは將來廃止すべきだといふことに同意する者の一人でございますが、ただ、現在館山市に出されましたところの請願書によるプールの税外負担撤廃に對しましては、次の三点をもちまして反対を表明するものでございます。

その第一点といたしまして今から約十年ぐらい前でございますが、当時私は地区労の常幹の一人となつて地区労の他の執行部の方とともに本間市長さんに對しまして十三項目の要望書を出した一人でございます。その中に教育施設の充実に、また教育費のPTA等の会費等の削減といふことをうたつてございまして、本間市長さんも私も君たちと同意見である。予算等のやりくりをもつて徐々に君たちの意向にそつうにしたいといふ公約とともに、最後に本間市長さんは、私は將來でできればPTA会費の全額負担を市でもつて行ない、一般の父兄に對する負担をなくするといふ公約がそこで取りかわされたのでございます。

しかるに、このたびプールの地元負担金の反対という声が出たそもそもとは、本間市長さんがランドセル等の問題についてあまりにいき過ぎではないか。ランドセル等を無償配布するならば何ゆゑにプールの負担金を取るのだといふ何の事情も知らない住民感情から發した。それをここに上程されましたところの紹介議員の皆さんまたその請願書を出しました方々は一方的に本間市長のみの攻撃に加えて、われわれといたしましては、勤労者としては本間市長がくも公約を実行されてくれたといふことに對する感謝の念をなくして、本間市長を攻撃の材料に使うといふことに對しては、私といたしましては同意しかねるのでございます。

第二点といたしまして、私も新人議員でございますが、館山市の予算というものを見た場合に道路の全面舗装化また港湾施設の整備、学校の増改築の問題等で非常に大きな問題が山積してありまして、余裕というものは私の方から見るところでも館山市といたしましては九〇%前後の規模になつてしまつておつて、この現状を見たときに今学校、ここで請願書によるところのプールの税外負担が可決されました、これが市の予算に組まれるといふことになつた場合には、これはただ単に予算が、プールの予算がふえたといふことの問題だけでなくて、住民感情といたしましてそれなら今までわ



れわれが地元負担を出したのはどうするのだという声も出てくると思います。さらに文部省といたしましては、義務教育におきましてもブルは無理につくる必要がないというところのブルが、全面的に市の負担になつた場合には、今後それ以上に館山市におけるところの公共施設、公共事業に対する各地区で莫大な地元負担金を出してあるのでございますが、これを一挙に廃止しろというよりな声が出たり、館山市の財政はおろか市政そのものが非常に混乱を巻き起こすと思います。現在直ちにこれを撤廃するということには反対するものでございます。

最後に、私ここに請願されました請願書の署名人が決して異議があるというものではございません。しかしながら、これを船形の例に取つてみますと、地区労のある役員の方がこの十七日の市会に対しまして請願書を出すために、あぐり関係に署名を取りにきたのでございます。そのときに私といたしましては、何の用ですかとその方に聞いたのでございますが、その方は一言も私にこの内容を話してくれませんでした。そうしてあすが八幡の祭礼だという前の日になつてあぐりの職員の方から電話がございまして、御承知のとおり船形のおぐり船団は東京湾の出漁でございます。そのため職員等が署名を行ないに行かれない。しかたがないから町で病気で休んでいる人とか、町に残つておる人に対して一人で五名も六名も名前を書いて、地区労のほうから矢の催促があつたのでしかたなしに出しましたという電話を受けて、そこではじめてこの問題におけるところの署名運動が行なわれておるのだということを知つたのでございます。

いやしくも、これだけの大きな問題、これだけのブルのものを全廃するという問題に対して保守、革新だというよりなことでも市民が右左されるといふことはもつてのほかだと思ひます。本当にこの議会でこの問題を討議するということになりますれば、もつと広く足でかせいで戸個訪問をしてそうして市民の大きな力をもつてくるならば、これは成功の可能性もございしますが、保守系の者には声をかけない。革新のみの線でやるといふうなことに対しますことに対しては、非常に私といたしましても反感をかうのでございます。

以上が、三点が私の反対表明でございますが、最後に私は本間市長さん、市当局にお願いしたいことは、本間市長さんが学用品の無償配布、ランドセル等の無償配布等をしていただきまして、教育基本法によるところの教育の機会均等



というものに対して非常に大きな貢献をしたということには感謝するものでございます。おかげさまで船形地区、館山地区の漁民の方は自分でランドセルを買うほどに成長して参りました。今後はそのランドセル等の予算を学校施設の充実にまわしたり、土木の予算にまわしてもらつて将来地元民が税外負担を幾分なりとも軽く、そういうことをお願いいたしまして、私の反対討論にかえさせていただきます。

(「反対討論が多過ぎる」と呼ぶ者あり)

## 動議

○ 二四番 (西村真次君) 議題となつております請願書に対する討論はただいままで賛否両論が開陳されたわけでありますが、いずれの立場をみましてもすでにその趣旨は十分に尽されておるようによろしく考へますので、この程度におきまして討論を打ち切り直ちに採決に付されますよう、議事進行の動議を提出いたします。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (吉田勇治郎君) ただいま動議が提出されました。おはかりいたします。ただいまの動議のとおり決定することに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。よつて本動議は成立いたしました。

## 採決

○ 議長 (吉田勇治郎君) 起立により採決を行ないます。  
本請願書を採択と決しますことに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 起立少数。よつて本請願書は不採択と決定いたしました。

閉 会  
午後二時四十一分 閉 会



○議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よつて会議規則第七条の規定により本日もつて第三回市議会定例会を閉会いたしますことに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。よつて本定例会はこれにて閉会することに決定いたしました。

○本日の会議に付した事件

一、認定第一号乃至認定第七号

一、議案第七十三号、議案第七十四号

一、請願書

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

吉田勇治郎

館山市議会議員

近藤好雄

館山市議会議員

望月照一



